

常なる磐

つねなる いわ

令和3年1月29日(金)

その4

◇ つながるということ

先日の27日のこと。

社教委員長の中根良夫さんが1枚の手作りの用紙をもって来校された。
自分は外部対応で席を外しており、帰校後、教頭から用紙を受け取った。

そこには、新聞記事(下記)と「常磐東っ子120年宣言」が貼付されており、
記事の表題で中根さんが何を伝えたかかったのかが理解できた。

新聞記事は、バイデン大統領の就任式で詩人のアマンダ・ゴーマンさん(23)が
朗読した自作の詩に、世界中から賞賛が集まったというもの。

新聞の表題は「光は常にある。光となる勇気があれば」。

アマンダさんの詩と120年宣言文のつながりを察する。

さらに、日本語訳した詩に【常】を見つけた。常磐の【常】と解釈する。

つながりは、価値付けである。「つなげる」のである。

自ら価値付け、つなげて、身体の底から無形の力が湧き上がるのを感じた時、
もう一歩前に進むとする勇気も生まれる。

ここにもつながりがある。

下記に新聞記事、そして裏面に詩の日本語訳を掲載した。

新たな「つながり」が見つけれられるはず。

◆中日新聞 令和3年1月23日 2面

「光は常にある。光となる勇気あれば」米大統領就任式で朗読

米連邦議会議事堂で20日(日本時間21日未明)に行われたバイデン大統領の就任式で、注目をさらったのが自作の詩を朗読した詩人アマンダ・ゴーマンさん(22)＝写真、AFP・時事＝だ。就任式に出た歴代の詩人で最年少。分断や不安に覆われた時代に、結束し未来へ歩もうと呼び掛け、堂々としたパフォーマンスに、世界中から称賛が集まった。

詩は「私たちが登る丘(The Hill We Climb)」。議事堂の一带は通称「キャピトル・ヒル」と呼ばれている。バイデン氏の就任演説に続いて登場したゴーマンさんは、「私たちが託された国より、ずっとよ

22歳詩人アマンダ・ゴーマンさん



い国を未来に残そう」「私たちは再建し、和解し、立ち直る」と訴え、「光は常にある。私たちがそれを見る勇気、光となる勇気さえあるのなら」と呼び掛けた。

(小嶋麻友美)

一日が始まると、自分に問いかける
この終わりのない暗がりのどこに光は差しているのかと

私たちは喪失感を抱えながら海原を進まねばならない
私たちは窮地にも勇敢に立ち向った

静寂は必ずしも平和ではなく
正しいとされる常識や概念がいつも“正義”とは限らない
それでも知らぬ間に夜は明ける
どうにかそれをやり、どうにかやりすごし
そして目の当たりにした
壊れていないけれど、ただ未完成の国を

私たちはこの国と時代の継承者だ
ここでは奴隷の子孫で、母子家庭で育ったやせた黒人少女も
大統領になることを夢見ることができる
気づけば彼女は今、大統領のために詩を読んでいる

私たちは完璧じゃないしピカピカではないけれど
完璧な国家を築くために努力していないということではない
目的に向かって団結し
どんな文化も肌色も特徴も状態も受け入れる国をつくる
だから私たちは上を向いて
私たちが隔てるものではなく
私たちに立ちだかるものに目を向ける

分断をなくす
未来を最優先するなら、違いを超えなければならないから
武器を置く
そうすれば、その手を差し伸べることができるから
誰も傷つけず皆が調和できるように
せめてこれは真実だと世界中に言わしめよう

悲しみながらも私たちは成長した
傷ついても希望を捨てなかった
疲れても挑んだ私たちは永遠の絆で結ばれている
勝利だと言えるように
二度と敗北をしないためではなく
二度と分断の種をまかないために

誰もが平和で豊かに何も恐れることのない世界を思い描こうと
聖書は説く

私たちが今の時代に応えるなら
勝利は刃の中ではなく、私たちが築いたすべての橋にある
それが、私たちがのぼる丘への約束
私たちに勇気があれば、アメリカ人であることは
私たちが受け継いだ誇り以上のもの
それは足を踏み入れた過去であり、いかに修復するかということ
国を分かち合うより、粉々にしようとする力を見せつけられた

国を壊し、民主主義を滞らせようとする試み
それは現実になりかけた
民主主義は一時的に止まることはあっても
敗北することは永久にない

この事実、この信念のうちに
しばし私たちは未来を見つめ、歴史は私たちを見つめる
今は贖罪の時代だ
私たちはその始まりに恐怖し、このような恐ろしい時代を受け継ぐ
準備ができていないと感じていた
しかし、の中で、私たちは新たな一章を記す力を見だし
自分たちに希望と笑いをもたらした

どうしたら大惨事を乗り越えて打ち勝つことができるかと
問うたこともあるが
今は
大惨事が私たちを乗り越えて、打ち勝つはずがないと断言できる
私たちは過去には戻らず、未来に歩みを進める
国は傷を負っているが、
一体となって、慈悲深い勇敢で、力強く、自由だ
私たちが奮しに振り回されたり、邪魔されたりしない
何もしないことや惰性で動くことが、
次の世代に引き継がれ、未来となることを知っているから
私たちの失敗が次の世代の重荷になる

ただ1つだけ確かなことがある
慈悲と力、力と正義が融合されれば、
博愛こそが私たちの遺産となり
変革こそ子どもたちの生まれながらの権利になる

だから私たちは、受け継いだ国よりも良い国を残そう
高鳴る胸で呼吸するたびに、
傷ついた世界を素晴らしき世界に変える
私たちは西部の黄金の丘から立ち上がる
祖先が革命を実現させた
風が吹き荒れる北東の地から立ち上がる
湖に囲まれた中西部の町から立ち上がる
太陽が照りつける南部から立ち上がる
私たちは再建し、和解し、回復する
国と呼ばれる、あらゆる場所で、多様で美しい人々が立ち上がる
打ちのめされても美しい人々が、一日が始まるとき
私たちは真っ赤な炎のように輝き
恐れることなく暗がりから抜け出す
私たちが解き放せば、新たな夜明けは花開く
光は常にそこにある
私たちにそれを見る勇気があれば
私たちに光になる勇気があれば